

白鳥の首を猥らとそしりけり

野本 京

初めて「鷹集」の巻頭に選ばれる。湘子の評は「俳句を本気でやる気になって、ようやくおもしろみがわかってきたのだろうか。白鳥の首を猥らと感ずること、は、私らにはもう不可能に近い。若い未婚の女性の、しかも鋭敏な感覚でなくてはこうはゆかぬ。」

昭和五十八年作